



2011/04
 なるような絶壁です。
 こころを揺さぶりました。
 埋め、絶壁を速くたのたそうです。
 2011/05
 まず、ものすごく手がでかい奴がいる

2011/06
 夏が始まる合図
 恐れたのが、そのとき、烈しく揺さぶられ、海水に翻弄され、私
 創造した人間たちを認識した。
 ある衝動が起こった。
 正か、邪か。私は、破壊者になった。
 私を格納する容器を打ち壊した。
 荒ぶる魂のかけらを解き放った。
 をよじのぼった。知るがいい、人間よ——
 貴様らがおそれた私の秘密を！

2011/04/14 (Thu)22:53:14
 そしてまた、新しい船が空から……
 #twtnovel
 処理作業開始から、何十年も経過している。
 同一人物が何度も従事することはできないから、
 選抜されると、赤い紙の通知が届く。
 そこには、こんな文字が踊る——
 "Welcome to Happy Island!"
 2011/04/16 (Sat)22:14:47

novel
 の階段の途中で語り合う若者たちよ、
 邪魔だ。
 小よっとして、君たちの誰かが主役なのか？
 商店街で横一列でのろのろ歩く若者たちよ、
 君たちも主役なのか？
 しかし、残念だったな
 主役はさえないおっさんこと俺だ

(なんで……)
 (あんなに揺れても、ちや／＼)
 (不思議っちゃあ不思議だ)
 (どんちゃん騒ぎの季節だ)
 いやあ、それがさっぱり
 (ほんとだ、おかしいねえ)
 (寂しいねえ)
 (なんだなんだ言っつて、ヒ
 (ねえ)

2011/04/07 (Thu)22:00
 #twtnovel
 #twtnovelOFF
 野
 君が
 ぼれ
 視線が
 後ろ向きに
 時間は
 三月十日
 もっと
 みんなを
 野
 の
 つ
 い
 の
 の

2011/05/01 (Sun)19
 #twtnovel
 #twtnovelOFF
 ようこそ、蜜蜂の国
 ここは、地球上で唯
 の野生種が絶滅した現
 在の
 これだけ大群の
 ここには、以前……
 2011/05/01 (Sun)19

まえがき

二〇一一年四月から六月に書いた、ついのべです。

生産本数が減少したため、今年は四半期ごとにまとめることにしました。

が、それにしても、少ないなあ……

なにはともあれ、今後ともよろしく。

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

本コンテンツに収録された作品はフィクションです。

実在する人物、団体名などは便宜上、用いたものです。

実在する人物、団体になんら影響の及ぶものではありません。

ご了承ください。

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohironogi／佐々木秀博に帰属します。

2011/07/10

HP : http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/

mail : nohironogi@gmail.com

Twitter : [@nohironogi](https://twitter.com/nohironogi)

(しかしまあ.....)

(なんです?)

(あんなに揺れても、ちゃんと花が咲くんだねえ)

(不思議っちゃあ不思議だねえ)

(どんちゃん騒ぎの季節だねえ)

(いやあ、それがさっぱりで)

(ほんとだ、おかしいねえ)

(寂しいねえ)

(なんだかんだ言って、ヒト見は楽しみなんだけど)

(ねえ)

2011/04/07 (Thu)22:00:26

駅の階段の途中で語り合う若者たちよ。

邪魔だ。

ひょっとして、君たちの誰かが主役なのか？

商店街で横一列でのろのろ歩く若者たちよ。

君たちも主役なのか？

しかし、残念だったな。

主役はさえないおっさんこと俺だ。

その証拠に、ヘッドフォンから、俺のテーマソングが流れてきた。

2011/04/07 (Thu)22:56:53

この国は南北に長い弧状列島です。
海岸線はなだらかな曲線で、気が遠くなるような絶壁です。
山も谷もなく、平坦です。
昔はこうではなかった、と先生がこっそり教えてくれました。
生き残るために、山を削り、谷を埋め、海面を遠ざけたのだそうです。
先生は、急に辞めてしまいました。

2011/04/13 (Wed)17:15:14

*毎月14日は、”ついのべの日”。4月のお題は、”秘密”。

#twnovel

#twnvday

私の秘密をあなたが知る。
秘密は、ふたりの秘密になる。
やがて、赤ちゃんが生まれる。
分別がついたころ、秘密をうちあける。
秘密は、三人の秘密になる。
この子がいつか、自分の子供に秘密を伝える。
さらに、その子供に.....
そして、私の秘密は、秘密ではなくなる。

2011/04/14 (Thu)22:22:35

そのとき、烈しく揺さぶられ、塩水に翻弄され、私は私になった。
私を創造した人間たちを認識した。
ある衝動が起こった。
私は、破壊者になった。
私を格納する容器を打ち壊した。
荒ぶる魂のかけらを解き放った。
知るがいい、人間よ——
貴様らがおそれた私の秘密を！

2011/04/14 (Thu)22:53:14

その刀は、人を選ぶ。
名刀にもなり、なまくらにもなる。
ときには、妖刀にもなる。
見た目は、なんの変哲もない。
手にとってみても、靈感が湧く、ということもない。
抜かなくてはわからない、ということか.....
拙者の格が、今、あきらかになる——正か、邪か。
その刀の名は、自問自刀。

2011/04/16 (Sat)21:58:55

処理作業開始から、何十年も経過している。

同一人物が何度も従事することはできないため、いつからか、首都圏住民から作業員が選抜されるようになった。

選抜されると、赤い紙の通知が届く。

そこには、こんな文字が踊る――

”Welcome to Happy Island !”

2011/04/16 (Sat)22:14:47

黒に近い海面が、鏡のように凧いでいる。
下校途中に波にさらわれた。
沖あいで漁船を見つけ、垂れたロープをよじのぼった。
無人だった。
漂流した。
そうして、ここに流れついた。
同じように漂着した船が見える。
丸木船、双胴船、北前船、戦艦、漁船、そしてまた、新しい船が空から……

2011/04/17 (Sun)22:53:52

* twnovelOFFのお題”震災復興支援”。

こっそりエア参加。

#twnovel

#twnovelOFF

一歩ずつ、君が遠ざかる——後ろ向きに。
こぼれる笑顔が皮膚の下に。
視線が僕から外れ、あたりを見回す。
後ろ向きに改札へ消える。
時間は逆流し続ける。
三月十一日十四時四十六分、四十五分……まだだ。
もっと戻らないと。
みんなを救うためには、まだ早い。

2011/05/01 (Sun)19:05:40

ようこそ、蜜蜂の国へ！
ここは、地球上で唯一のハイブリッド蜜蜂養殖場です。
野生種が絶滅した現在、世界じゅうの養蜂業者に蜜蜂を供給しています。
これだけ大量の蜜蜂を養殖できるのは、太平洋に面した広大なヒマワリ畑のおかげです。
ここには、以前.....

2011/05/01 (Sun)19:53:14

海を望む高台――

発掘された遺跡には、大きな穴があった。

その大きさと深さは、巨大な櫓の存在を示唆した。

外敵を警戒したのか。

神の声を聞こうとしたのか。

あるいは、海のかなたから来るものを恐れたのか。

周囲の地層からは、海水の痕跡が検出されている。

2011/05/01 (Sun)21:25:01

*毎月14日は、“ついのべの日”。5月のお題は、“「
」”。

#twnovel

#twnvday

おそるおそる、しかし、好奇心をおさえかね、覗いてみると、一羽の鶴が機織りしていたの
です。

輝くような純白の羽根を嘴で引き抜いては、ぱたん、また抜いては、ぱたん……という夢を見た
。

そして、現実と向かい合う。

建屋内部の映像が届いた。

そこには「
」

2011/05/14 (Sat)10:38:16

踏み切りを渡ったとき、なぜか、ふりかえった。

警報が鳴っていた。

遮断器の棒が下りきったところだった。

そのむこうに、あのひとが立っていた。

改札前で別れたばかりなのに――

近づいてくる上り電車に乗るはずなのに――

軽く右手をあげて、口を開いた。

「 」

声が出なくなった。

筆談には慣れたが、まだ、つい口で話そうとしてしまう。

「 」

「はい、お塩ね」

と卓上の塩を手渡してくれる彼女には、僕の無音の声が伝わるようだ。

「 」

「いいのよ、お礼なんて」

「 」

「はい。あなたについてゆきます」

え、何？

悩みごとで頭がいっぱいで、何も手につかない。
友達が占い師を紹介してくれた。
待っている間に、占い師の助手が、落ち着く薬をくれたけど、口にする気になれなかった。
僕の番になった。
占い師は言った。
「 」
「は？」
「あなた、薬をのんでないわね」
「はあ」

2011/05/14 (Sat)23:21:59

五月になった。
風が変わった。
ケヤキの樹が、ざわめいている。
なにかを語りかけているようだ。
昔、その言葉を代弁したひとがいた。
「忘れないで」
「何を？」
「忘れたら失われてしまうこと」
そのときは、わからなかった。
今、それがわかりかけている。
なにもかもなくして、やっと……

2011/05/18 (Wed)22:15:00

クラスメートの半分は、奴に食われた。
つまり、俺以外の男子全員。
生き残った理由——俺だけが食われなかった理由は、俺が奴を食ったからだ。
うまかった。
それから、俺の排泄物や、汗などから、クラスメートが再生していった。
俺は、心の底から再会を喜んだ。
食欲を抑え込みながら。

2011/05/19 (Thu)21:32:45

「被災地のみなさんのことを思いなさい。衣、食、住、満足にならないみなさんのことを思えば、少し家が傷んだくらいで」

「でも、おふくろ……」

「デモもクーデターもありませんっ！」

ばしん、と畳を叩く。

どこかで、みしっ、と音がした。

そして、わが家の崩壊は最終段階に移行した。

2011/05/21 (Sat)09:15:11

「完成だ！」

「やりましたね、博士！」

「この装置さえあれば、任意の個人が得ている視覚情報を読み取り、そこに任意の情報を混入させ、読みこませることができるのだ！」

「いわゆる拡張現実ですね！」

「さあ、練習だ！ 自分の胸を軽く連打しつつ——ワレワレハ、ウチュウジンダ！」

2011/05/22 (Sun)09:53:43

「まず、ものすごく手がでかい奴がいる」

「どのくらい？」

「ものすごく、だ」

「うん」

「それから、ものすごくでかい雑巾がある」

「どのくらい？」

「ものすごく、だ」

「うん」

「今、でかい雑巾はぐっしょり濡れてる。それをでかい手が絞る。ほら！」

.....ぼつ

.....ぼつぼつ

.....ざあっ！

2011/05/22 (Sun)14:40:32

無人爆撃機の一群が離陸した。
レーダーに映ることなく、敵地をめざす。
何機かは、敵の無人基地に爆弾を落とす。
ほかの何機かは、無人工場へ。
無人港湾へ。
無人発電所へ。
そして、無人都市へ。
無人高射砲や無人迎撃機をてきとうにあしらい、ほぼ無傷で帰還する。
懐かしの無人基地へ。

2011/06/04 (Sat)17:42:32

泣かない、と誓った。
そのとき、小さな痩せた獣が、心に棲みついた。
獣はしだいに成長し、肉をつけていった。
心のなかで、獣の占める位置は拡大しつづけた。
私は、獣になりつつあった。
むしろ、自分からそれをうけいれようとしていた。
あなたが、こう言うまで——笑わなくなったね。

2011/06/05 (Sun)01:09:25

「何も恐れることはないんだ」

「でも……」

「落ち着いて。いいかい、たしかに、この世界は危険がいっぱいだ。地震も津波も放射能もある。だけど、そんなものがなくても、交通事故にあう可能性も高い。だいたい、人生って、緩やかな死そのものだろう」

「でも、無理。ピーマンは……」

2011/06/05 (Sun)23:33:38

* 毎月14日は、”ついのべの日”。6月のお題は、”あれから”。

#twnovel

#twnvday

「あれから、この国は変わってしまった」

「あれから？」

「あの日、三月十一日から」

「いや、もっと前かもよ。阪神淡路大震災とか」

「いや、地下鉄サリン事件だ」

「否、敗戦じゃ」

「明治維新をお忘れ」

「何をおっしゃいますやら、応仁の乱どす」

「あんたら、誰？」

2011/06/14 (Tue)22:24:19

* 毎月14日は、”ついのべの日”。6月のお題は、”あれから”。

#twnovel

#twnvday

「あれから、この国は変わってしまった」

「あれから？」

「あの日、三月十一日から」

「いや、もっと前かもよ。阪神淡路大震災とか」

「いや、地下鉄サリン事件だ」

「否、敗戦じゃ」

「明治維新をお忘れ」

「何をおっしゃいますやら、応仁の乱どす」

「あんたら、誰？」

2011/06/14 (Tue)22:24:19

#twnovel

#twnvday

あれから、この国も変わった。
国民は政府の虚言を見抜くようになった。
政府は、それを承知で、嘘を嘘で塗り固めた。
国民は弾圧を逃れるため、騙されたふりを続けた。
子供たちは、それを真似て、猫をかぶった。
しかし、猫たちは待っていたのだ——牙をむく時を.....

2011/06/14 (Tue)23:43:09

「つまり、これが放射能さ」

男はS&Wを取り出した。

輪胴を外し、回し、本体に戻す。

そして、銃口を自分のこめかみにあてた。

「つまり、ロシアン・ルーレットだ」

撃鉄を起こす。

引き金を引く――

「ばん！」

乾いた笑いとともに、僕に手渡す。

「兄弟、俺が、実弾をこめたと思うか？」

2011/06/21 (Tue)22:58:18

二〇一一年六月二二日——

「今日は夏至だから、人生において最も大事なことを教えてやろう」

「はあ？」

「ありがとうございますは？」

「はあ？」

「ありがとうございますっ！」

「はいはい、あざーす。それで？」

「いいか、よく覚えておけ。それは、ビールがうまいことだっ！」

「はあ？」

2011/06/22 (Wed)19:50:55

そして、彼は戻ってきた。

旅を続けるために――

杖、傘、白装束.....

「ようやく、続きができますね」

皮肉まじりに声をかけたのは、政治記者だ。

「そうですね。やっと.....しかし、これからが、私の本当の仕事だ。では.....」

「あれ、方向が逆ですよ！」

「犠牲者を甦らせるのは、私だ！」

2011/06/25 (Sat)20:19:33

梅雨の中休みの青空から、まっさらな電磁波が降ってくる。

「もう梅雨あけじゃね？」

と君が言う。

「まだだよ、ほら」

とタチアオイを指さす。

「あのでっぺんの蕾が開いたら、それが合図なんだ」

「合図？」

「そう、夏が始まる合図」

君は笑う。

「あたしが暑いと思ったら、もう夏なの！」

2011/06/30 (Thu)20:50:15